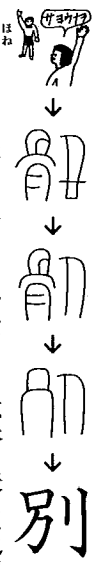


# 別

四年

画数 7  
筆順 ロ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ  
オン ベツ  
クン わかりれる

成り立ち



「骨」の形を表した「骨」と、「切る」意味を表した「刀」を組み合わせて作った字です。

肉をりよりする時に、肉を骨から「切りはなす」ことを表した字です。「切り分ける」ことです。切って、「分ける」ことから「分かれる」という意味に使われ、「人と別れる」という使い方もするようになりました。【例】別離、告別。

「他の」「ちがった」という意味にも使われます。【例】別人、別名、別紙。  
また、「特別」という意味にも使われます。【例】別格。

使い方

▽「会うは別れのはじめ」といいます。良い友だちにめぐり会っても、やがては別離が待っているかもしれません。でも、いつかは別々になるとしても、良い友だちというのは大切にしたいと思います。親友というのは、そう滅多にできるものではないのですから。

▽きのう、山本さんらしい人を見かけたので、近づいて行ってあいさつしようとしたら、良く似た別人でした。世の中には、他人の空似ということがあるものだと思います。

熟語例

- ▽別離 (別れ。別れ離れること。)
- ▽告別 (別れを告げること。とくに、死んだ人に別れを告げることを行います。)
- ▽別人 (別の人。ちがう人)
- ▽別名 (別の名前。本名とちがう名前)
- ▽別紙 (別の紙。本文とは別にそえた紙。「くわしいことは別紙に書いてあります」などというふうに、つかいます。)
- ▽別格 (特別の格式。特別の地位)

使い方

▽わたしのおじいちゃんやんは、辺地のお医者さんでした。まだ若かった頃、おじいちゃんやんは、医療に恵まれない辺鄙な土地に行って、病気を治すのが夢でした。医学校を卒業して、三、四年経験をつんでから、片田舎のお医者さんのいない土地に赴任しました。くらはは楽ではなかったそうですが、夢がかなって、本当にうれしかったそうです。

熟語例

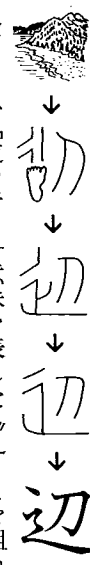
- ▽辺地 (かたいなか。交通が不便で、住んでいる人の少ない所)
- ▽辺境 (国の中心から遠く離れた、国さかい。「辺境の守りにつく兵隊は、故郷を遠く離れて、さぞかし寂しかったに違いない」などというふうに、つかいます。)
- ▽辺鄙 (国の中心からはなれたさびしいなか。「こんな辺鄙な土地にも、風雅な建物があるので、おどろいた」などというふうに、つかいます。)
- ▽身辺 (身の近く。身のまわり)
- ▽炉辺 (いろいろの近く。ろばた。「炉辺談話」といえば、ろばたでくつろいでする、よもやま話のこと。)

# 辺

四年

画数 5  
筆順 フ、刀、辺  
オン ヘン  
クン ベ・あたり

成り立ち



「刀」と、「道を行く」意味を表した「辵」とを組み合わせて作った字です。

身をまもるために「刀」をもって行かなければならぬ。「人里を遠くはなれた土地」のことを表した字です。国の中心から遠くはなれた「かたいなか」の意味に使われます。【例】辺地、辺境、辺鄙。(表外字。)

「あたり」「その近く」という意味にも使われます。【例】海辺(海辺)、身辺、炉辺。  
また、「へり」の意味に使われます。【例】水辺(みずべ)、四辺。